

夏休み企画

2024.

7/13<sup>土</sup>

8/25<sup>日</sup>

# 書をみる



上田桑鳩「心」

開館時間：午前9時－午後5時

休館日：■月曜日(ただし、7月15日・8月12日は開館)  
■7月16日(火)・8月13日(火)

入館料：無料

主催：新潟市北区郷土博物館

一般的に、手紙は用事や気持ちを特定の人に伝えるために書かれます。文書は出来事を記録したり、考えや意思を多くの人々に表明したりするために書かれます。いっぽう、「書」という芸術作品は、必ずしも文字を「読んでもらう」とか、その内容を「伝える」ために制作されたものではありません。上田桑鳩(1899-1968, 兵庫県生まれ)は、「書とは自由な創作である」という思想を展開し、書を芸術という世界の舞台に押し上げることに尽力しました。

この展覧会では、上田桑鳩と、その芸術思想に傾倒し自身の表現を模索した新潟県出身の弦巻松蔭(1906-1995)の書世界を、当館所蔵作品により紹介します。文字あるいは文を読もうとする慣習から離れ、「見る」ことを通して書作品を楽しんでいただきたいと思います。



弦巻松蔭「風磨雲拭」

— 弦巻松蔭と上田桑鳩の作品 —



つる まき しょう いん うえ だ そう きゅう  
 —弦巻松蔭と上田桑鳩の作品—

# 書をみる



上田桑鳩「観妙」



弦巻松蔭「烈烈炎々」

### 弦巻松蔭《1906(明治39)–1995(平成7)》

葛塚町（現新潟市北区葛塚）生まれ。学書する者が各自で古典と向き合う通信教育誌を通して、比田井天来や上田桑鳩から指導を受け、全国規模の公募展に出品。1936（昭和11）年、30歳で上京し、桑鳩に入門します。その間に桑鳩は『臨書研究』を著し、古典研究から創作へと誘導する斬新な理論を展開。松蔭はそこで新しい潮流に身を置きました。1945（昭和20）年、終戦直前に帰郷。故郷で創作と教育に生きる決意をし、桑鳩の思想の影響下で、独創的な表現の実現に努力しました。

### 上田桑鳩《1899(明治32)–1968(昭和43)》

兵庫県奥吉川村（現三木市）生まれ。1927（昭和2）年、28歳で上京。二松學舎で古典を学んだ後、比田井天来のもとで近代的な臨書法の研究に没頭します。1933（昭和8）年、同志とともに書の芸術運動を推進。1940（昭和15）年には、『臨書研究』により独創的な造形理論を構築しました。戦後は、自由な造形思考によって、実験的な作品制作を展開するいっぽう、新しい時代の書芸術の振興と国内外への普及に尽力しました。

#### 出品作品リスト

	作品名	制作年
1	一念不動	1967
2	面壁	1969
3	烈烈炎々	1974
4	風磨雲拭	
5	龍	1979
6	虎	1979
7	愛	1993

#### 出品作品リスト

	作品名	制作年
8	山高水長	
9	観妙	
10	露堂々	
11	圓	
12	高啓詩『尋胡隱君』	c.1968
13	心	
14	節臨枯樹賦	
15	臨廣武將軍碑	

### 【関連事業】

#### 博物館講座「アートを楽しむ—弦巻松蔭と上田桑鳩の書作品を中心に」

・博物館講座の4回目として開催します。

●6月30日(日)午後2時から3時半

▪講師:神田直子氏(元当館学芸員) ▪定員:先着30人 ▪申込:6月19日(水)9時から電話申込開始

### 会期中の催し

= 対話で楽しむ作品鑑賞会 =  
 小学生のみの参加も歓迎します

- 8月4日(日) 午後2時～3時  
 ▪講師:神田直子氏(元当館学芸員)
- 8月11日(日) 午後2時～3時  
 ▪講師:当館学芸員



交通案内  
 新新バイパス(R7) 豊栄ICより10分、競馬場ICより10分  
 日本海東北自動車道 豊栄新潟東港ICより5分  
 JR白新線豊栄駅 南口より徒歩15分

## 新潟市北区郷土博物館

〒950-3322 新潟市北区嘉山3452  
 TEL 025-386-1081